

## 東南アジアの草刈り場 ラオス

須賀 努

コラムニスト・アジアンウオッチャー

東南アジアの小国ラオス。実にゆったりとした時間が流れる癒しの国として、欧米人にも人気の観光地である一方、未だに様々な統制がある社会主義国家の一面も見えてくる、実は複雑な国なのである。今回は最近2度訪れたラオス事情をお伝えしたい。

### 実は豊かな国？

ラオスは人口僅か650万人。『2-3年前にはチャイナ+ワンの受け皿の1つ』として注目されたが、この人口では大規模な工業を受け入れることは難しい。また国土の多くは山間部、農業の発展にも限界があり、それほど豊かな国と言った印象はない。だが人々の生活には何となくゆとりがあり、せかせかした雰囲気もない。ビエンチャンの街を歩いても、他のアジアの都市と違い、物乞いの姿を見かけることは少ない。

古都で世界遺産にも登録されているルアン普拉バーンへ行くとさらに顕著で、お寺とメコン川だけがある静かな街に出くわす。我々が勝手に思う『物質的に恵まれた暮らし』とは異なる、心の豊かさを実感できる場所であった。欧米人に人気があるのも頷ける。中国人の団体観光客などは素通りしそうな場所である。

『実はラオスは豊かな国。物価はそれほど高くないし、家族がみんな

ちょっとした稼ぎを持っていて、それらを寄せ集めれば十分に生活できる。田舎の土地は余っているので、食べるだけなら自分で作物も作れる』とはビエンチャン在住日本人の言葉。ここは典型的な母系社会で、末娘が家を相続する伝統があり、男は入り婿。男は稼ぎを持って嫁の家へやってくる存在とか。食べるのに困らなければ大らかになれる、ということだろう。

### 地政学的に重要な国

首都ビエンチャンの旧市街地は他のアジア諸国の首都と異なり、未だに高い建物も少なく、発展から取り残されている印象すら受ける。だがこんなラオスにも、近年急速に資本主義の波が押し寄せてきており、郊外には不動産開発プロジェクトが多くみられる。

ラオスは中国、タイ、ベトナムという有力国に挟まる微妙な位置に存在し、歴史的にはフランスの植民地だったという複雑な過去を持つ。アジア、特にアセアンが見直されている今日、アセアンの連携上物流などにおいてラオスの位置づけが重くなった。ある意味で草刈り場のような状況を呈している。

ベトナムは社会主義国の兄貴分、タイは色々と複雑な隣国だが、経済的な結びつきは強かった。そこにここ数年中国が割って入り、次々と投資を行っている。不動産開発プロジェクトの多くは中国の資金で賄われ、中国から日用品などが流れ込む。ビエンチャンには中国製品を扱う中国市場まである。経済的にもこれまではタイへの売電などが収入源であっ



写真1 ルアンプラバーンのメコン川



【須賀努氏のプロフィール】

東京外語大中国語科卒。  
金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。  
現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。

撮影：佐渡多真子



たが、最近是中国への資源輸出が顕著となり、中国依存度を一層高めている。



写真2 ビエンチャンの空港にも中国のプレゼンスが

自国を豊かにし、そして自らの懐も温めたい政府

幹部は、各国の政治的な綱引きをうまく利用して、支援を引き出している。ここ1-2年アジアシフトしてきたアメリカまで加わり、ラオスにおける支援合戦が繰り広げられ、それがこの穏やかで豊かな国を蝕んできているように見える。

北朝鮮との親密な関係

各国が注目しているのは、その地政学的な重要性だけではない。実はラオスは数少ない社会主義国家として、北朝鮮との関係が極めて緊密な国でもある。昨年5月に脱北者がラオスで逮捕、強制送還された事件は日本でも報道されたが、金正恩がトップに就任後、最初に会った外国要人がラオスの国家主席だったことはあまり知られていない。

そしてラオス人の中には、『ラオスは北朝鮮情報の最前線』と呼ぶ人までいる。実際筆者は9月にあるラオス人に『近々北朝鮮で異変が起きる可能性が高い。日本も地理的に近いのだから気を付けた方が良い』と教えられた。その時はラオスで北朝鮮のことなんか、と思っていたが、北のナンバー2であった張成沢氏が12月に処刑されたことをみれば、この情報の精度の高さに驚きを隠せない。

社会主義国家ラオスには情報統制が敷かれてお

り、政府に都合の悪いことは厳しく取り締まられていることから、真相は不明ながら、『資金がラオス経由で北朝鮮に流れている』と解説する人までいる。

デフォルト寸前の経済

以前この欄でも紹介したモンゴル同様、小国ラオスは中国への依存度を強め、そして有償の支援を過度に受けた結果、現在債務危機に陥っているとの話がある。

9月の段階で、ラオス在住日本人から『ラオスの通貨キップから外貨への両替が制限されている』との話があり、中国の景気減速の影響が出てきていると感じられた。またタイ経済の減速により、電力販売も落ち込んでいるとみられ、これまで数年続いてきたGDP7-8%成長が難しくなっているようだ。

実際中国のある金融関係者と会うと、『ラオスの融資返済が滞り始めた。当然ラオス政府機関の保証も取っている案件、外貨繰りがかなり厳しくなっているようだ』と教えてくれた。しかしなぜラオスのような小国に融資したのかと聞くと、『我々がやりたくてやっている案件ではない。全ては国策だ。中国は機会があればラオスを何とか取り込みたいと考えているので、バンバン資金を投入している。我々はその犠牲者だ』と中国政府のラオス政策の一端を明かしている。

もし本当にラオスがデフォルトの危機に瀕しているとなれば、それこそ各国が救済に乗り出し、主導権争いを繰り広げるだろう。そして経済危機は知らぬ間に処理されていくのかもしれないが、注意が必要である。